



農大だより

URL <https://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第27号 香川県立農業大学校
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井 34-3
TEL 0877-75-1141
FAX 0877-75-3989
E-mail : nodai@pref.kagawa.lg.jp

- 専攻実習の取り組み □活躍する卒業生 □頑張る修了生 □校外講師の授業風景
- 同窓会だより □農大トピックス1・2 □オープンキャンパス実施

専攻実習の取り組み

ミニトマト栽培に取り組んで
野菜園芸コース 日此 一晴

私は四月から他の二年生三人と共に、校内で専攻実習に取り組んでいます。それぞれが卒業論文用の課題研究を行っています。ですが、私はミニトマトの新設施設で隔離ベッド栽培試験を行うことにしました。

試験は、単為結果性のミニトマト生育特性や品質について調査することです。七月下旬に播種してから約一か月間育苗して八月中旬に本圃へ定植しました。(写真)



本圃は有機質主体の隔離ベッドで、水や肥料は自動で給液できるシステムです。定植後から猛暑が続きましたが、順調に生育し、現在は誘引作業をしています。

栽培管理と並行して卒論のための生育調査や収量調査等のデータを収集しているのですが、多忙な専攻実習ですが、頑張るって納得のいく論文に仕上げたいと思っています。

小ギク栽培の省力化

花き園芸コース 三浦 綺華

私達二年生は、校内と先進農家に分かれて専攻実習を行っています。私は校内でお盆やお彼岸などに需要の多い小ギクの省力化をテーマにして、卒業論文にも取り組んでいます。

その内容は、施設ギクの標準技術である直挿し技術を、露地小ギクに利用して省力化効率化できないかと考え、調査を進めています。

今後は、調査データを解析し、卒論を作成していきます。この結果が本県の小ギク生産の一助になればと思います。

農大で培った知識や技術を社会に出て活かせるよう残された学生生活も精一杯頑張りたいと思っています。



ピオーネの多収化試験

果樹園芸コース 三木 良紀

果樹園芸コースは、校内と農業試験場府中果樹研究所に分かれて専攻実習を行っています。ですが、この実習の中で卒業論文のテーマを各々が計画し、先生方から指導をいただきながら取り組んでいます。私はブドウ「ピオーネ」の一枝二房による多収化の試験に取り組んでいます。

現在、果実は順調に肥大し、待望の収穫を迎える季節となりました。今年は猛暑のため果実肥大に不安がありましたが、肥培管理に責任を持つ

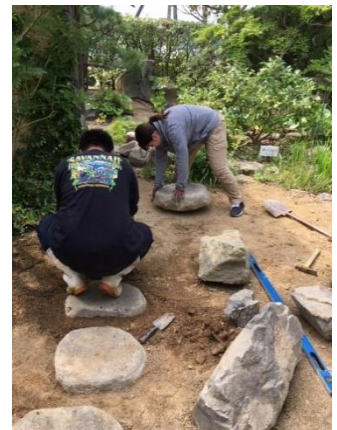
て頑張ってきました。しかし、園地ではハクビシンの被害があり獣害対策をしっかりとする必要があります。写真は、実家（大阪）には帰省せずに、夏休み返上で農業大学校買田農場において、果樹園に立ち寄り、卒論作成のためのデータ収集を行っている私の姿です。



4号庭園の改修

造園緑化コース 野藤日菜子
私は専攻実習の一環として、校内4号庭園でサツキ等の低木が植栽されていた部分を一部取り壊し、新しい庭への改修を卒論テーマに取り組んで

います。



庭園内には「待合」を設けており、そこから見える風景が味気なく感じられていました。そこで、私は日本らしい色や形、風情が感じられる庭を造ろうと思ひ、卒業論文の課題として取り組むこととしました。

最初にサツキ等の低木、周りの縁石の撤去をしました。縁石は「モルタル極め」をさしていたので撤去が大変でした。また、新しい庭の計画図の作成では、図面を書いた経験がなかったこともあり、時間がかかりました。

今後は、計画に基づき作庭作業を進めることになりませんが、これらの経験が、目前に迫っている就職活動などにも役立つ事を期待して頑張っていきます。

子牛への暑熱対策について

畜産コース 森 隆広

畜産コースの二年生は全員県畜産試験場で専攻実習を行っています。私は、同試験場研究員に御指導いただき、子牛の暑熱対策についての卒論課題に取り組んでいます。

最近では毎年のように猛暑で、牛にとっては人間以上に大きなストレスとなっています。牛は食べたエサを第一胃で発酵しており、この発酵熱の放散に支障が出ると、暑熱ストレスが強くなり食欲が低下して、生産性や繁殖性に大きな影響が出ます。



チ（小型簡易隔離牛舎）が一

般的となり、猛暑が子牛の健康状態に影響していることが心配されるため、子牛への暑熱対策が必要となっています。現在、アルミ遮断断熱材で被覆したカーフハッチがどの程度暑熱対策に有効かを調査中で、子牛といっしょに猛暑の中を頑張っています。

活躍する卒業生

三木 大侑さん（善通寺市）

私は、県オリジナル品種のキウイフルーツに興味を抱き、出身の小豆島を離れ、農大の果樹園芸コースに平成二九年に入学しました。

一学年次の農家実習、二学年次の専攻実習ともに善通寺市のキウイフルーツ専業企業である有限会社キウイボードコーポレーションの島田社長の下で技術等を学びました。卒業論文もキウイフルーツを課題に選び取り組みました。平成三〇年に農大を卒業した後、キウイボードコーポレーションに正社員として雇用就農しました。島田社長から「栽培は決して手を抜くな、

農業は妥協すれば負けだ」な
ど心に残る言葉も受けました。
現在では、キウイフルーツ
の年間栽培管理が身について
きましたが、社長のようにな
るために経験と叡智をみがい
ていきたいです。



頑張る修了生

藤田 勝敬さん（三豊市）

令和二年四月から七月まで
の四か月間、就農準備研修野
菜コースで野菜の栽培技術を
学びました。

これまでは家族経営でプロ
ツコリーと水稻を中心とした

農業経営を行っていましたが、
今年、「株式会社ヨイケ」を設
立し、法人化もしたことから、
経営規模の拡大も目指してい
ます。

あるご縁により中古ハウスの
材料を譲り受けたことから、
農大での「農業用ハウス自力
施工研修」にも参加しました。
この中古ハウスを利用してア
スパラガスの栽培にチャレン
ジする予定です。

今後も、フォローアップ研
修を受講するなど技術や経営
のスキルアップを行い、経営
者としての資質もあげていき
たいです。



校外講師の授業風景

香川大学農学部 亀山 宏先生
農業大学校では、外部講師
として「農業経営学」、「アグ
リビジネスマーケティング
論」、「国際農業論」等の様々
な講義を担当し、主に経営戦
略・事業計画・マーケティング
分野で学生に教鞭をとって
きました。



亀山先生の講義風景

本県に限らず農業・農村の
多面的機能・役割という点で
も評価が厳しい実情がありま
すが、地域農業の視点からは
やはりリーダーの人材育成が
重要ではないかと考えられま

す。農大生には実践的な学び
の優位性を活かし、就農につ
ながるようがんばってほしい
と願っております。

私も本年度で退職となりま
すが、農大での思い出ととも
に、香川県農業の発展を祈念
しています。

農大トピックス その①

高設養液栽培新施設竣工

この度、国補事業を活用し
て、新しい施設が七月に竣工
しました。

本施設は、最新の技術（I
CT技術、自動化技術等）を
導入し、イチゴ・ミニトマト
に特化したモデル的なもの
なっています。



定植したイチゴの前の向原幸歩さん

二年生の向原幸歩さんは、「さぬき姫」を七月一三日と二〇日に本施設内定植し、「本圃増殖のイチゴ開花時期の調査などについて(仮題)」という卒業論文の調査研究を行っています。

また、本施設は技術研修科研修生の研修の場としても利用します。研修終了後、自信をもって施設園芸品目に取り組んでいただきたいと思います。

農大トピックス その②

農大で免許・資格を取ろう

農大では、就農や農業法人等への就職に向けて、学生に対して積極的に免許・資格の取得を勧めています。

技能講習や特別教育を受講することで、フォークリフトやパワーショベル等の操作方法を学びながら資格を取得することができます。

そのなかでも、県運転免許センターの協力を得て、農業機械研修として実施している農耕車限定の大型特殊免許の

技能講習は、公道走行に係る法規制が緩和されたことを受けて、一般農業者からも人気が高い研修となっております。本年度は開催回数、受入人数を増やして対応しています。



同窓会だより

J A香川県小豆地区営農センター
副センター長 山地 宏樹さん

私は農家の長男として生まれ、厳しかった父から農作業を手伝わされたため農業には嫌な思い出しがありませんでした。高校卒業時にも自分の夢や希望が叶わなかったこと

から、当時の先生の薦めで農大の野菜園芸コースに入学しました。

しかし農大では言葉では語り尽くせないほど良い思い出ばかりで、寮生活やスポーツ大会など懐かしいことばかりです。今も当時の仲間とお酒を酌み交わすこともありま

す。現在JAに勤務していますが、農大の先輩や後輩がたくさん在席していることや、お世話になった教授が地元で活躍されていることから度々相談に伺っており、本当に助かっています。



最後に在校生の皆さんへ。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、学生生活も大変でしょうが、今後の色々な出会いに感謝しつつ、香川県

の農業を支える人物になってください。

オープンキャンパスを開催しました

八月二日(日)・三〇日(日)

の午前と午後の、計四回、オープンキャンパスを開催しました。猛暑の中、本校を進路の候補と考えている学生や保護者等百名を超える方々が参加しました。

参加者からは「パンフレット等だけでは分からなかった農大の大きさや実習場の状況が分かるなど、入学するための参考となりました」との声が聞かれました。



実習農場を参加者に説明する担当教授